

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	山梨学院大学
設置者名	学校法人山梨学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
法学部	法学科	夜・通信			18	18	13	
	政治行政学科	夜・通信			22	22	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			42	42	13	
健康栄養学部	管理栄養学科	夜・通信			34	34	13	
国際リベラルアーツ学部	国際リベラルアーツ学科	夜・通信			15	15	13	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	夜・通信			14	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_class

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山梨学院大学
設置者名	学校法人山梨学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.ygu.jp/aboutygu/executive.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2020.4.1 ～ 2022.3.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	医療法人理事長（医師）	2018.4.1 ～ 2022.3.31	組織運営体制への チェック機能
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山梨学院大学
設置者名	学校法人山梨学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【授業計画(シラバス)の作成過程】	
各授業科目における授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を示した授業計画(シラバス)を授業担当教員が作成し、第三者による点検作業を実施している。	
授業計画(シラバス)作成においては、所属学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)と科目の関連性、準備学習等(課題・予習・復習・調査等)の予復習時間の明確化等も含めた全ての内容について、各学科のカリキュラム改革委員が内容確認を行うこととしている。また、作成した授業計画(シラバス)は本学ホームページ(以下URL)に掲載し、広く社会に公表している。	
【授業計画の作成・公表時期】	
授業計画(シラバス)は、前年度の1月にカリキュラム改革委員会より全教員に作成依頼がなされ、3月末の作成期限までに完成した内容を速やかに本学ホームページ(以下URL)にて公表している。なお、授業計画(シラバス)には、到達目標や成績評価の方法を明確に示すことはもちろん、試験やレポート等の課題に対する説明機会を設けることを徹底するために、それらのフィードバック方法の記載を全学的に求めている。そして、授業計画(シラバス)の第三者チェックを全学部で実施することで、授業計画(シラバス)の客観性や厳格性を担保している。	
授業計画書の公表方法	https://ygu-ibs.cc.ygu.ac.jp/syllabusgaku/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【単位の授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況】

単位の授与及び学修成果の評価にあたっては、授業科目ごとに授業計画(シラバス)に記載した評価の方法及び割合に則り、厳格な評価を行っている。成績評価の基準は以下の1から4に掲げる通りである。

また、本学は学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)を全学的に掲げ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力・資質、これらの総合的な活用力及び各授業科目の到達目標等の修得状況を、機関レベル、教育課程レベル、科目レベルの3つのレベルで把握し、評価するよう努めている。

成績の評価は、筆記試験のほか、レポート、実技、平素の学習状況によって授業科目ごとに行われる。

1. 授業科目の成績評価は5段階に表示し、**A**～**C**の成績評価を得たものはその科目の単位を修得したものとし、**D**を不合格とする。
2. 成績表示に対するグレードポイント(GP)は、次のとおり。

区 分	合 格				不 合 格
	A	A	B	C	D
評価基準	90点～100点	80点～89点	70点～79点	60点～69点	59点以下
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

3. 成績問い合わせについて

履修を終了した授業科目は、学修効果を高めることを目的として、担当教員から成績結果について書面を用い、より詳しい説明を求めることができる。

担当教員は、問い合わせを受領した日から1週間を目安として回答することとなっている。なお、成績評価に関する「問い合わせ」の期間は、成績発表の日から2週間である。

4. GPA(Grade Point Average: 科目成績平均値)

GPAとは、単位当たりの成績の平均値であり、以下の計算式によって算出する。

G P A =	[(科目の単位数) × (その科目で得た Grade Point)] の総和
	(履修登録した単位数) の総和

累 積 G P A =	[各学期で得た科目の取得ポイントの合計] の総和
	(各学期で履修登録した単位数の合計) の総和

(注1)「演習系科目(基礎演習、専門演習)」、「実技系科目(スポーツと健康Ⅰ・Ⅱ)」、「実習系科目(インターンシップ)」や、「R(単位認定科目)」、「W(履修中止)」は、計算式に含まない。また、卒業要件単位に算入しない教職課程の科目は、GPAの算出の対象としない。

(注2) 不合格科目(D評価)などを再履修した場合、「総履修登録単位数」には再履修前の評価を累積のGPAに算入しない。但し、学期ごとに算出するGPAにはそれぞれ算入する。

(注3) GPAは、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、次のとおり学期成績結果及び成績通知書に記載する。

学期成績結果……学期ごとのGPA、通算のGPA

成績通知書……通算のGPA

(注4) 取得ポイントとは、(科目の単位数) × (その科目で得た Grade Point) をいう。

5. 成績通知書は、前期末(9月)、年度末(3月)に教務課より保護者宛に通知する。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【GPA等の客観的な指標の具体的な内容】 本学では、学生の成績評価に関して、以下のとおり、GPAを客観的な指標を設定して、これに基づく成績の分布状況を公表している。</p> <p>【客観的な指標の適切な実施状況】 本学ホームページや学生便覧に、上述したGPAの算出方法や成績評価の方法等を予め明記することで、当該指標の説明を行っている。 また、成績の分布状況については、学習・教育開発センターにて分析を行い、学科ごとの一覧を作成し、本学ホームページに公表している。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_assess
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【卒業の認定に関する方針の具体的な内容】 本学では、建学の精神、教育理念に基づき、大学及び学部ごとに「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定め、以下のホームページにおいて広く社会に公開している。これら学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)には、学位を授与するに相応しい学生が身につけるべき資質・能力について、具体的かつ明確に示す工夫をしている。</p> <p>【卒業の認定に関する方針の適切な実施状況】 本学では、以下のホームページにて学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び卒業の認定にあたっての基準を公表している。そして、これらの基準等に則り、本学学則で定めた手続きにしたがって、各学科の課程を卒業した学生に対し、学長が学位を授与している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_assess

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山梨学院大学
設置者名	学校法人山梨学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.ygu.jp/aboutygu/jigyo.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.ygu.jp/aboutygu/jigyo.html
財産目録	http://www.ygu.jp/aboutygu/jigyo.html
事業報告書	http://www.ygu.jp/aboutygu/jigyo.html
監事による監査報告(書)	http://www.ygu.jp/aboutygu/jigyo.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.ygu.ac.jp/guide/#jikotenken

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.ygu.ac.jp/guide/#jikotenken

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部法学科
教育研究上の目的 公表方法：「山梨学院大学の教育目的・目標」 https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target
(概要) 【教育目的】 法学の基本的素養を備え、公正・公平の観点から現代社会が直面する諸問題に対応できる能力を養成し、もって社会正義の実現に貢献できる人間を育成すること。 【教育目標】 (1) 法律を学ぶことを通じて、社会の仕組みを知り、社会のあらゆる問題に対して深く考える力を備えた人間を育成する。 (2) 社会のさまざまな紛争とその解決過程を学ぶことを通じて、他者を理解し、物事を多面的にとらえることのできるバランスのとれた考え方ができる人間を育成する。 (3) 明確な自分の将来像をもつとともに、その実現のため、自ら考え、冷静・客観的な判断・行動ができる人間を育成する。
卒業の認定に関する方針 公表方法：「三つの方針」(3つのポリシー) ディプロマ・ポリシー (DP) https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target
(概要) 法学科では、法学科のアドミッションポリシー・到達目標・カリキュラムポリシーを踏まえ、以下の能力を備えた者に学位を授与する。 ① 把握する力(知識・理解) 社会に必要な法的な知識を習得し、社会における法律の役割を理解できる。 ② 考え抜く力(判断・思考) コミュニケーション・スキルを持ち、物事を冷静・客観的に分析し、合理的な判断ができる。 ③ 挑戦する力(関心・意欲) 多様な価値観を受容しながら、公平・公正な社会を実現するために努力できる。 ④ 協調する力(態度・倫理) 社会に貢献するため、社会人に求められる基本的な素養・倫理観を備えている。 ⑤ 行動する力(発信・表現) 法学科で学んだ知識と考え方を活かし、自ら運用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：「三つの方針」(3つのポリシー) カリキュラム・ポリシー (CP) https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target
(概要) 【編成方針】 卒業後の進路を考慮し、法学科では、「公務員モデル」、「企業モデル」、「法律家モデル」という3つの履修モデルを用意し、各モデルに沿った形の体系的なカリキュラムを編成する。 (1) いずれのモデルにおいても、1年次に基礎演習を履修、大学での基本的な学習作法を学ぶ。併せて、基本科目である憲法・民法・刑法を中心としたカリキュラムを編成するが、法律学の学習に不慣れな点を踏まえ、体系的な理解ができるような授業を展開する。また、資格試験に有用な科目を設置し、学習した法律学がど

<p>のように役立つかも知れずとも、将来のキャリア形成の手助けをする。</p> <p>(2) 各モデルに応じてカリキュラムマップを策定し、それに沿った形で、</p> <p>① 「公務員モデル」にあつては、希望する公務員職種に合わせ、公務員試験および公務員任用後に必要な法律科目（憲法・民法・刑法・行政法・自治体法・刑事訴訟法など）を履修させる。</p> <p>② 「企業モデル」にあつては、民間企業への就職およびその後の活躍に必要な法律科目（民法・会社法・商法・国際私法・知的財産法・労働法などを履修させる。</p> <p>③ 「法律家モデル」にあつては、法科大学院進学あるいは各種の資格試験（司法書士や行政書士など）を目指すことを想定し、いわゆる基本7法（憲法・行政法・民法・会社法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）を含む広範な法律科目を履修する。また、学内の法科大学院研究室も、目標達成を支援する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 法律を学ぶことを通じて、社会の仕組みを知り、社会のあらゆる問題に対して考える力を備えた人間になる。</p> <p>② 社会のさまざまな紛争とその解決過程を学ぶことを通じて、他者を理解し、物事を多面的にとらえることのできるバランスのとれた考え方ができる人間になる。</p> <p>③ 明確な自分の将来像をもつとともに、その実現のため、自ら考え、冷静・客観的な判断・行動ができる人間になる。</p> <p>④ ①～③により、総合的な学習を経験し、創造的思考力を身につけた人間になる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） アドミッション・ポリシー（AP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の教育理念および教育目標のもと、法学科では、次のような人材を求める。</p> <p>【求める学生像】</p> <p>① 法学科での学びにつながる基礎学力を備えている人。</p> <p>② 社会で起きているさまざまな問題に対して興味をもち、それを主体的に考え、表現することができる人。</p> <p>③ 法学科で自分を成長させようとする強い意志と意欲を持っている人。</p> <p>④ 明確な目的をもち、その実現のための具体的計画を立てられる人。</p> <p>【入学者に求める能力】</p> <p>現代社会の基礎となっている市民社会と人権を理解するために、公民（現代社会、倫理、政治・経済）、地理歴史（世界史、日本史、地理）、また、言語感覚及び論理的思考力を身につけるために国語、外国語及び数学の基本的な事項について学んでおくことを求める。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試（センター方式、本学一般試験方式） 大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査において、志願者の能力や資質を総合的に評価する。 ・入試（推薦試験） 調査書、面接及び小論文において、志願者の能力や資質を総合的に評価する。

<p>学部等名 法学部政治行政学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：「山梨学院大学の教育目的・目標」 https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>

<p>(概要)</p> <p>【教育目的】 現代における公共空間の変容に対応した、行政、市民、企業を主たる担い手とする政治社会のあり方に関する歴史的、理論的、政策志向的な教育・研究に取り組み、公共性と社会性を備えた人間としての人格的成長を促進していくこと。</p> <p>【教育目標】 (1) 市民感覚を備えた人材を育成する。 (2) 国際感覚を備えた人材を育成する。 (3) 地域と地球を視野に政策立案・問題解決に取り組むことのできるリーダー的役割を担う人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） ディプロマ・ポリシー（DP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>① 把握する力（知識・理解） 社会人として必要な幅広い教養と、政治学・行政学の専門的知識を身に付け、それらの知識を背景に社会的事象を複合的に理解できる。</p> <p>② 考え抜く力（判断・思考） 社会的事象に対して論理的・政策志向的に考察し、批判的・創造的な判断ができるようになる。</p> <p>③ 挑戦する力（関心・意欲） 自らが志向する専門分野のみならず、関連・隣接分野に至るまで常に主体的・自主的に学び、学修の成果を社会の発展に役立てよう努める。</p> <p>④ 協調する力（態度・倫理） 公共性に対して常に配慮する責任感・倫理観を持ち、グローバルな視点をもって、自らと異なる文化・価値観に対し寛容な姿勢を涵養する。</p> <p>⑤ 行動する力（発信・表現） 社会生活の基礎となるコミュニケーション能力、情報収集能力、問題発見・分析・解決能力を身に付ける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） カリキュラム・ポリシー（CP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>【編成方針】 ① 学科専門教育と密接に連携した語学、基礎教育科目、政治行政学導入科目を幅広く設置する。 ② 政治学、行政学、憲法学など学科教育の中核となるべき科目を選択必修とし、幅広い専門科目修得に向けた基礎的学力を養成する。 ③ 専門科目群履修に際し、学生の将来の志望に則した「行政・政策」、「市民・政治」、「国際関係」の各モデルを設定し、自発的選択を促す。 ④ 総合科目、アクティブ授業など座学の知識を実践に転換する能動的科目を設置し、学生の社会性涵養をめざす。</p> <p>【到達目標】 ① 公共的な事柄に対する関心を持ち、政治・行政・社会との関わりを意識する。 ② 政治・行政・社会に関する概念・用語を理解し、知識として習得する。 ③ 知識を応用して、現実の政治現象を分析し、判断する。 ④ 分析と判断を基礎として、政策志向的な研究・議論を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） アドミッション・ポリシー（AP）</p>

https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target
<p>(概要)</p> <p>① 政治行政学科の学びに繋がる基礎学力を備えている人。 ② 身近な地域から世界まで、社会的な事象に対する関心を持っている人。 ③ 自発的自律的に学び、自己を向上させようという意欲を持っている人。 ④ 学びの成果を、社会の発展につなげ、役立てようという意志を持っている人。</p>
<p>学部等名 経営学部経営学科</p> <p>教育研究上の目的 公表方法：「山梨学院大学の教育目的・目標」 https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>【教育目的】 人々から信頼される地域経済の担い手として、自律的な行動を通じて、幅広い分野で活躍できる人を育成する。</p> <p>【教育目標】</p> <p>(1) 広い視野と深い洞察に基づき、主体的に社会的課題を発見・解決する人を育成する。 (2) 多様な価値観の存在に向き合い、他者との相互理解を図り、協働する人を育成する。 (3) 自身の将来像の下、自律的に成長課題を見出し、挑戦・改善し続ける人を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） ディプロマ・ポリシー（DP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学科の学生は、卒業後に人々から信頼される地域経済の担い手として、自律的な行動を通じて、幅広い分野で活躍できる人となるべく、卒業時には以下の5つの力を兼ね備えているものとする。</p> <p>① 把握する力（知識・理解） 幅広い教養と経済・経営・情報に関する専門知識を身につけ、これらを用いて多面的に経済社会を捉えることができる。</p> <p>② 考え抜く力（判断・思考） 地域社会で生じる諸課題を発見し、ビジネスの視点から課題解決に向けた論理的・批判的・創造的判断ができる。</p> <p>③ 挑戦する力（関心・意欲） 地域の経済や社会が抱える課題に関心をもち、積極的に自己・組織・地域を改善する意欲をもつ。</p> <p>④ 協調する力（態度・倫理） 高い職業倫理に基づいて自己コントロールができ、多様な価値観に配慮しながら、他者と積極的に関わることができる。</p> <p>⑤ 行動する力（発信・表現） 企業経営や組織運営において、適切にコミュニケーションを取り、培った力を効果的に発揮できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） カリキュラム・ポリシー（CP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>

<p>(概要)</p> <p>経営学科の教育目的・教育目標を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p> <p>① 教養教育においては、大学での学修に必要な基礎的な知識・技能を身につける科目、幅広い教養と豊かな人間性を養う科目、多様な価値観の理解を深める科目を設置する。</p> <p>② 専門教育を通底するものとして、協働と実践を通じて、地域経済の担い手としての意思と能力を養い、社会と職業への適合を果たす科目を設置する。</p> <p>③ 専門教育の基盤をなすものとして、ビジネスに対する興味・関心を喚起する科目、および、ビジネスで必要とされる基礎知識と汎用能力を養う科目を設置する。</p> <p>④ 専門教育の中核をなすものとして、実践的な課題解決と専門的な知識習得の往還を通じて、ビジネスで求められる知識・技能の活用能力を養う科目を設置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） アドミッション・ポリシー（AP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学科では、人々から信頼される地域経済の担い手として、自律的な行動を通じて、幅広い分野で活躍できる人を育成するため、高い知的好奇心に支えられた基礎的な学力を持った入学者を求める。</p> <p>① 基礎的な知識・技能 大学での学修で必要となる基礎的・基本的な知識・技能、特に、国語(文章の読解や作成)、数学(論理的思考や計算)、地理・歴史・公民(社会の仕組みの理解)の基礎知識を備えた人。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力等の能力 大学での学修、特に、企業事例の分析、地域課題への提言、インターンシップ等の能動的な学びに必要となる高い知的好奇心、問題を分析する力、自らの考えを的確に伝える表現力を備えた人。</p> <p>③ 主体性・多様性・協働性 幅広い分野に興味・関心を持って積極的に大学での学修に取り組み、教員・学生・社会人と円滑にコミュニケーションをとって自ら進んで学ぼうとする意欲を持った人。</p>
<p>学部等名 健康栄養学部管理栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：「山梨学院大学の教育目的・目標」 https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>【教育目的】 管理栄養士の養成を中核として、保健・医療・教育・福祉・介護の分野において健康の保持増進・疾病の予防と改善を目指す。 栄養マネジメントを遂行できる能力を育成するとともに、地域社会の食生活と健康の向上に貢献する資質を養うこと。</p> <p>【教育目標】</p> <p>(1) 幅広い教養と対人関係力を備えた人材を育成する。 (2) 高度な専門的知識・技術を備えた人材を育成する。 (3) チーム医療に貢献する力を備えた人材を育成する。 (4) 優れた栄養指導能力を備えた人材を育成する。 (5) 地域の活性化に貢献する力を備えた人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） ディプロマ・ポリシー（DP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>

<p>(概要)</p> <p>① 把握する力 (知識・理解) 管理栄養士として保健・医療・教育・福祉・介護等の多様な領域で必要とされる専門的な知識・技能を修得し、多角的な視点から社会の課題を考察することができる。</p> <p>② 考え抜く力 (判断・思考) 食と健康にかかわる課題を解決するための情報収集・分析能力と論理的・創造的な思考力を身につけている。</p> <p>③ 挑戦する力 (関心・意欲) 管理栄養士の社会的使命を自覚して新しい知識・技能の習得に努め、それらを総合的に活用して社会に貢献しようとする意欲を持っている。</p> <p>④ 協調する力 (態度・倫理) 健康と生命に対する倫理観を有し、人々の多様な社会的・文化的背景を理解しようとする意欲を持っている。</p> <p>⑤ 行動する力 (発信・表現) 考えを的確に表現し、他者と協同して社会で役立つ成果を生み出すことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」 (3つのポリシー) カリキュラム・ポリシー (CP) https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>【編成方針】 管理栄養学科の教育目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p> <p>① 総合基礎教育科目においては、社会を築く構成員としての幅広い教養を養う科目、大学で学ぶ意義を明確にし、学ぶためのスキルと思考力、対人関係力の育成を図る科目、情報と機器を十分に活用できる能力を養うための科目を設置する。</p> <p>② 専門教育科目の導入分野では、専門領域を学ぶ上での基礎となる知識を修得し、管理栄養士の役割・使命についての理解を深め、専門領域の学習に向けた学力の向上と目的意識の明確化を図るための科目を設置する。</p> <p>③ 専門基礎分野・専門分野では、管理栄養士として国民の健康栄養管理を担う意欲と質の高い専門の知識・技術を養い、優れた栄養指導能力を育成するための科目を設置する。</p> <p>④ 専門発展分野では、管理栄養士としての総合的な学力の向上を図るとともに、地域の具体的課題に対応した健康増進・食育 推進・食産業振興の実践的な活動が展開できる能力を養うための科目を設置する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 管理栄養士としての専門的な学習を通じて、基礎的な知識・技術を獲得している。</p> <p>② 体験的な学習を通じて、適切なコミュニケーションにより他者を理解し、客観的な判断と行動ができる。</p> <p>③ 管理栄養士としての社会的使命と責任を自覚している。</p> <p>④ 食と健康にかかわる課題を抽出し、解決するための具体的な提案ができる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」 (3つのポリシー) アドミッション・ポリシー (AP) https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>① 知識・技能・専門的な知識を学ぶ上で重要となる基礎学力を備えている人。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力 課題の解決に必要な分析能力や思考力を備え、自己の考えを論理的に述べることができる人。</p> <p>③ 主体性 専門職として明確な目標と向上心を有し、学問に取り組む意欲 をもっている人。</p>

学部等名 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科
<p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：「山梨学院大学の教育目的・目標」 https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>【教育目的】</p> <p>幅広い学問分野を横断的に英語で学ぶことにより教養を高めると同時に、母語の違いはもとより、国籍や地域、民族及びその慣習や考え方などを乗り越えてコミュニケーションをとる能力と、自己規律と他者への配慮を身につけ、精神的にも成長することができること。</p> <p>【教育目標】</p> <p>(1) 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。</p> <p>(2) 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力を備えた人材を育成する。</p> <p>(3) 異文化に対する親しみと寛容の精神を備えた人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） ディプロマ・ポリシー（DP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科では、所定の単位を修め、以下の能力を備えた者に学位を授与する。</p> <p>① 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力を有している人。</p> <p>② 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力を有している人。</p> <p>③ 異文化に対する親しみと寛容の精神を身につけている人。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） カリキュラム・ポリシー（CP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>【編成方針】</p> <p>国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の教育目的を達成するために、リベラルアーツ型のカリキュラムを編成する。</p> <p>① 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力を身につけるための科目を設置する。</p> <p>② 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力を身につけるための科目を設置する。</p> <p>③ 異文化に対する親しみと寛容の精神を身につけるための科目を設置する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 日本語と英語の双方における、高度なコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>② 批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力を身につける。</p> <p>③ 異文化に対する親しみと寛容の精神を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） アドミッション・ポリシー（AP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>国際リベラルアーツ学部では、英語による授業の実施と幅広い授業科目の展開を通じて、学生が知的側面においても精神的側面においても成長することを目指した教育が実施されることから、次のような人材を求める。</p> <p>① 意欲が高く熱心な人。</p> <p>② 学問的な潜在能力と一定の学業上の成果を有する人。</p>

- ③ 寛容な精神とともに、知的好奇心があり、批判的で柔軟な思考ができる人。
- ④ 本学部での学修に必要な基礎的な英語力と、英語の学習能力が備わっている人。

<p>学部等名 スポーツ科学部スポーツ科学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：「山梨学院大学の教育目的・目標」 https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <p>【教育目的】 スポーツに関わる専門的能力とともに、社会人基礎力（前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク力））を身に付けることができること。</p> <p>【教育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 高いスポーツ競技力や実技能力を身に付けた人材を育成する。 (2) スポーツ実践に関わる幅広い基礎的な知識や技能を身に付けた人材を育成する。 (3) 競技スポーツや生涯スポーツの実践に有用な専門的な知識や技能を身に付けた人材を育成する。 (4) 卒業後の進路と結びつくより専門的な知識や技能を身に付けた人材を育成する。 (5) スポーツや体育、健康に関わる今日的課題の解決方法を身に付けた人材を育成する。
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） ディプロマ・ポリシー（DP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 把握する力（知識・理解） スポーツ科学の学際的知識（人文科学・社会科学・自然科学）をもとに幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、複合的な視点から社会を捉えることができる。 ② 考え抜く力（判断・思考） 体系的にスポーツに関する理論を学ぶことによって修得した社会人基礎力を基に、スポーツの実践場面で論理的思考に基づき 批判的・創造的な判断ができる。 ③ 挑戦する力（関心・意欲） 高いスポーツ競技力や運動能力を身に付けるとともに、修得した競技スポーツや生涯スポーツの実践に有用な専門的な知識や 技能を生かして、主体的に自己および社会を向上させようとする意欲を持つ。 ④ 協調する力（態度・倫理） 競技スポーツや生涯スポーツを学ぶことで、多様な価値観に配慮しながら全人的なバランスのとれた態度で周囲に働きかけ協 調することができる。 ⑤ 行動する力（発信・表現） 培った力を他者や社会のスポーツや体育、健康に関わる今日的課題の解決に活かすことができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） カリキュラム・ポリシー（CP） https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_target</p>

(概要)

【編成方針】

- ① 一般教養科目を幅広く履修できるための科目を設置する。
〔総合基礎教育科目、など〕
- ② 専門教育科目を幅広く履修できる科目を設置する。
〔専門教育科目「共通科目」、など〕
- ③ スポーツ実技科目を幅広く履修できるための科目を設置する。
〔専門教育科目「共通科目」、など〕
- ④ 各人の興味・関心や将来設計に応じて、より発展的な専門科目を総合的に履修できるための科目を設置する。
- ⑤ ④を踏まえて、卒業後の進路と大きく関連する専門科目を重点的に履修できるための科目を設置する。〔専門教育科目「キャリア形成科目」〕
- ⑥ 開設科目をできる限り精選し、意味のある科目を効率よく履修できるようにする。
- ⑦ 各人の興味・関心や将来設計に応じて、個性を活かした履修計画を立てられるようにする。
- ⑧ 学習意欲を喚起するために、できる限り少人数による授業を設置する。
- ⑨ 学年進行に合わせて（レディネスに合わせて）授業を履修できるようにする。

【到達目標】

- ① スポーツ科学の学際的知識（人文科学・社会科学・自然科学）をもとに幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、複合的な視点から社会を捉えられるようになる。
- ② 体系的にスポーツに関する理論を学ぶことによって、学問知と実践知・経験知を融合し、スポーツの実践場面で有用な論理的思考や創造的判断ができるようになる。
- ③ 高いスポーツ競技力や運動能力を身に付けるとともに、修得した競技スポーツや生涯スポーツの実践に有用な専門的知識や技能を活かして、主体的に自己および社会を向上させようとする意欲を高める。
- ④ 競技スポーツや生涯スポーツを学ぶことで、社会の多様な価値観に配慮し、地域社会等と連携を図りながら、全人的なバランスのとれた態度で周囲に働きかけ協調することができる。
- ⑤ 培った力を他者や社会のスポーツや体育、健康に関わる今日的課題の解決に活かすべく、社会人基礎力（前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク））を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：「三つの方針」（3つのポリシー） アドミッション・ポリシー（AP）
https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouthoukoukai.php#ygu_target

(概要)

(1) 知識・技能

大学での学びにつながる基礎学力、運動能力を備えている人。

(2) 思考力・判断力・表現力

スポーツや体育、健康に関わる今日的な課題を多角的に捉え、判断し、表現することができる人。

(3) 主体性

周囲と協働しながら、以下に示す課題を達成しようとする人。

- ① 授業やスポーツクラブの活動をとおして、競技力や運動能力をさらに高めること。
- ② 授業やスポーツクラブの活動をとおして、スポーツ科学の“知と技”（指導能力、研究能力、科学的サポート能力、マネジメント能力など）を実践的に身に付けること。
- ③ 大学生活で得た学修成果を、国内外のさまざまなスポーツ関連分野において活かすこと。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php#ygu_soshiki

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
法学部	—	26人	2人	4人	0人	0人	32人
経営学部	—	21人	5人	4人	0人	0人	30人
健康栄養学部	—	5人	3人	2人	0人	5人	15人
国際リベラルアーツ学部	—	10人	6人	7人	0人	0人	23人
スポーツ科学部	—	12人	8人	1人	3人	0人	24人
学習・教育開発センター	—	0人	6人	1人	0人	0人	7人
グローバル・ラーニング・センター	—	3人	4人	4人	0人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				96人			96人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.ygu.ac.jp/guide/archives.php トップページ > 教育研究活動に関する情報公開 > 教員の紹介					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
https://www.ygu.ac.jp/led/resources.php							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	270人	390人	144.4%	1,360人	1,610人	118.4%	—	—
経営学部	300人	352人	117.3%	920人	1,191人	129.5%	—	—
健康栄養学部	40人	34人	85.0%	180人	165人	91.7%	10人	0人
国際リベラル アーツ学部	50人	59人	118.0%	270人	160人	59.3%	—	1人
スポーツ科学部	200人	210人	105.0%	730人	823人	112.7%	—	—
合計	860人	1,045人	121.5%	3,460人	3,949人	114.1%	10人	1人
(備考) 法学部政治行政学科は2020年度学生募集停止								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	391人 (100%)	9人 (2.3%)	347人 (88.7%)	35人 (9.0%)
経営学部	201人 (100%)	4人 (2.0%)	173人 (86.1%)	24人 (11.9%)
健康栄養学部	35人 (100%)	0人 (0%)	35人 (100%)	0人 (0%)
国際リベラルアーツ学部	29人 (100%)	7人 (24.1%)	14人 (48.3%)	8人 (27.6%)
スポーツ科学部	167人 (100%)	9人 (5.4%)	147人 (88.0%)	11人 (6.6%)
合計	823人 (100%)	29人 (3.5%)	716人 (87.0%)	78人 (9.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	2016年度入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	1人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【授業計画(シラバス)の作成過程】</p> <p>各授業科目における授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等を示した授業計画(シラバス)を授業担当教員が作成し、第三者による点検作業を実施している。</p> <p>授業計画(シラバス)作成においては、所属学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)と科目の関連性、準備学習等(課題・予習・復習・調査等)の予復習時</p>
--

間の明確化等も含めた全ての内容について、各学科のカリキュラム改革委員が内容確認を行うこととしている。また、作成した授業計画（シラバス）は本学ホームページ（以下URL）に掲載し、広く社会に公表している。

【授業計画の作成・公表時期】

授業計画（シラバス）は、前年度の1月にカリキュラム改革委員会より全教員に作成依頼がなされ、3月末の作成期限までに完成した内容を速やかに本学ホームページ（以下URL）にて公表している。なお、授業計画（シラバス）には、到達目標や成績評価の方法を明確に示すことはもちろん、試験やレポート等の課題に対する説明機会を設けることを徹底するために、それらのフィードバック方法の記載を全学的に求めている。そして、授業計画（シラバス）の第三者チェックを全学部で実施することで、授業計画（シラバス）の客観性や厳格性を担保している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

【単位の授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況】

単位の授与及び学修成果の評価にあたっては、授業科目ごとに授業計画（シラバス）に記載した評価の方法及び割合に則り、厳格な評価を行っている。成績評価の基準は以下の1から4に掲げる通りである。

成績の評価は、筆記試験のほか、レポート、実技、平素の学習状況によって授業科目ごとに行われる。

1. 授業科目の成績評価は5段階に表示し、A～Cの成績評価を得たものはその科目の単位を修得したものとし、Dを不合格とする。
2. 成績表示に対するグレードポイント（GP）は、次のとおり。

区 分	合 格				不合格
評 価	A	B	C	D	D
評価基準	90点～100点	80点～89点	70点～79点	60点～69点	59点以下
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

また、本学は学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）を全学的に掲げ、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質、これらの総合的な活用力及び各授業科目の到達目標等の修得状況を、機関レベル、教育課程レベル、科目レベルの3つのレベルで把握し、評価するよう努めている。

【卒業の認定に関する方針の適切な実施状況】

本学では、以下のホームページにて、DP（卒業認定・学位授与の方針）の基準を公表しています。そして、これらの基準等に則り、本学学則で定めた手続きにしたがって、各学科の課程を卒業した学生に対し、学長が学位を授与している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法学科	124 単位	有	単位
	政治行政学科	124 単位	有	単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	単位
健康栄養学部	管理栄養学科	124 単位	有	単位
国際リベラルアーツ学部	国際リベラルアーツ学科	124 単位	有	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	124 単位	有	
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部 経営学部	法学科 経営学科 2020年度入学生	816,000円	200,000円	380,000円	教育充実費 380,000円
	法学科 政治行政学科 経営学科 2019年度入学生	765,000円	200,000円	310,000円	教育充実費 310,000円
	法学科 政治行政学科 経営学科 2018.2017年度入学生	720,000円	200,000円	310,000円	教育充実費 310,000円
健康栄養学部	2020年度入学生	816,000円	200,000円	480,000円	教育充実費 380,000円 実習費 100,000円
	2019年度入学生	750,000円	200,000円	530,000円	教育充実費 310,000円 実習費 220,000円
	2018.2017年度入学生	720,000円	200,000円	530,000円	教育充実費 310,000円 実習費 220,000円
国際リベラルアーツ学部	2020年度入学生	1,116,000円	200,000円	380,000円	教育充実費 380,000円
	2019.2018.2017年度入学生	1,185,000円	200,000円	310,000円	教育充実費 310,000円
スポーツ科学部	2020年度入学生	816,000円	200,000円	480,000円	教育充実費 380,000円 実習費 100,000円
	2019.2018.2017年度入学生	795,000円	200,000円	400,000円	教育充実費 310,000円 実習費 90,000円

※1 入学金は入学年次のみ

※2 法学部政治行政学科は、2020年度学生募集停止

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生の修学支援については、学生センターの「学生何でも相談窓口（相談の1次受付業務）」において受付対応を行っている。そのうえで、学生生活全般の相談、学費・奨学金に関する相談など、学生センターの業務に関連した相談・サービス等の支援を行なっている。

履修相談、修学支援業務、成績不振学生への支援については、教務課が担当しホームページを通じた情報提供や問い合わせへの対応により、学生を支援している。

また、学生センターでの1次相談受付では、一過性の案件と連続的支援が必要な案件とを区分して、他の所属と連携し学生サービスの向上に努めている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

進路選択に係る支援に関しては、次のような取組を実施し、就職キャリアセンターのホームページを通じて学生に対する告知を行っている（同ホームページには、進路選択に係る支援を目的とした行事日程も掲載している）。

- ・学年別・キャリアガイダンス
- ・公務員ガイダンス
- ・オンライン資格取得講座

- ・サマーインターンシップ（民間及び公務）
- ・業界研究セミナー・交流会
- ・適職診断テスト
- ・留学生ガイダンス

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

学生の心身の健康等に係る支援に関しては、次のような支援を行っている。

学生の身体に関する健康管理については、保健管理室が健康診断の実施や日常のケガ等の応急処置から健康相談などを行って、健康な学生生活を実現するためのサポートを行っている。

学生のメンタルヘルスに関わる支援については、学生相談室が臨床カウンセラーによる個別にカウンセリングを実施しているほか、「こころの健康調査」などを行いながら、学生の心身の健康をサポートしている。学生相談室によるサポートについては、ホームページを通じて学生に周知している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ygu.ac.jp/guide/jyouhoukoukai.php>